

函館市認知症初期集中支援チームの活動状況

(平成30年度から令和7年10月まで)

(1) 新規事業対象者数 (年度および性別) (人)

(平成30年度から令和5年度省略)

	令和6年度	令和7年度 (※令和7年10月末時点)
男性(人)	2	0 (令和6年度から継続2名)
女性(人)	0	0
合計(人)	2	0

平成30年度から令和7年10月までの 実人数
10(43.5%)
13(56.5%)
23(100%)

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため減少。その後、新規相談はあったが協議中に状況が変化し、通常支援の対応となるケースもあり、新規事業対象者数が少ない現状が続いている。

(2) 事業対象者の状況 (訪問支援対象者の内訳) (人)

認知症疾患の臨床診断を受けていない	22
医療サービス、介護サービスを受けているが、認知症の行動・症状が顕著で対応に苦慮している	1

(3) 事業対象者の把握ルート (相談者) (人)

SOSネットワーク	民生委員	水道業者	本人	配偶者の ケアマネ	郵便局	ケアマネ	家族
1	1	1	1	2	2	4	11

※相談対応者の内訳
 ・地域包括支援センター 19人
 ・市 3人
 ・主治医 1人

(4) 事業対象者へのチーム支援の実施結果 (人)

チーム介入後	
認知症専門医受診 (現在支援中の事業対象者1名含む)	15
一般病院に入院 (現在支援中の事業対象者1名含む)	3
GH入所	1
受診拒否	3
死亡	1

支援終了時	
在宅生活	13
認知症に伴い入院	2
一般病院に入院	3
死亡	2
GH入所	1

※支援終了時在宅生活の13人の内訳
 ・サービスの利用(継続含む) 8人
 ・要介護認定まで 3人
 ・介護保険未申請 1人
 ・その他 1人

(5) 令和6年度2月から令和7年度10月までの相談ケース概要

事業対象外					
	相談 受付	年代	性別	概要	対応
1	R7	70代	女	夫婦で同居。もの忘れあり。糖尿病で令和7年3月に入院。夫が妻の退院を病院に説得し数日で退院。息子が自宅に向かうと、尿、便が放置。本人風呂場で転倒。息子から包括に相談したが、その後本人糖尿病で再入院。入院中に脳梗塞の診断。病院が介護保険新規申請し担当ケアマネジャー決定。リハビリ転院、もしくはデイケア、訪問介護、訪問看護利用を検討。病院入院中、並びに介護サービス利用検討中であることを踏まえ、通常支援での対応となった。	通常支援

事業対象					
	相談 受付	年代	性別	概要	対応
1	R6	70代	男	妻と同居。要介護2。交通事故による外傷性くも膜下出血等の既往あり。眩暈の症状あるが未受診。階段踏み外すなど転倒の場面増え、家に閉じこもりがち。宅配サービスを利用しビールを箱買いし、妻が不在時は昼から飲酒。妻に対してどなることが多くなった。妻は服薬管理や金銭管理、親の介護、週2回の就労で介護負担大。精神医療受診、専門医受診、妻の介護負担軽減を進めるため事業対象者として支援開始するが、専門医受診予定を控え、令和6年7月自宅で転倒。救急搬送され入院。令和6年11月摂食障害あり、嚥下機能の低下。誤嚥性肺炎を繰り返し経鼻経管栄養と点滴施行中で在宅生活困難なため転院。回復傾向の場合施設入所を検討するが、長期入院が予想される。	終結に向けて 検討中
2	R6	80代	男	独居。認知症に関する受診なし。水道、光熱費等は頻繁に未払い。自宅は不衛生。年金、生活保護費が入るとパチンコ、競輪に使う。2年間入浴なし。食事摂取せず過ごすことも多く、やせ。介護者の妹は本人の病院受診希望。事業対象者として、令和6年7月初回訪問。令和6年9月チーム員会議実施。認知症疾患医療センターの受診、介護認定、小多機利用につながる。令和7年3月保佐人選任。介護認定更新のため認知症疾患医療センター再受診。1年前からHDS-R変化なし、脳委縮進行。内科異常なし。令和7年6月アセスメント訪問。本人徒歩で食品買い物し食事摂取。夕食は配食サービス利用。お金がないとの訴えなし。現在も在宅生活を継続中。	終結に向けて 検討中

〈課題〉

認知症初期集中支援チームの事業対象者が少ない現状が続いている。

〈ご意見を伺いたいこと〉

事業を効果的に活用するために工夫することとしてどのような案があるか。